

1969年9月4日、

アメリカ大使誘拐。

ブラジルで、世界で

センセーションを

巻き起こした

クアトロ・ディアス

4日間の真実が、

今、明かされる。

# QUATRO DIAS

## クアトロ・ディアス

ブルーノ・バラット監督作品 主演:アラン・アーキン/ペドロ・カルドーゾ/フェルナンダ・トーレス/フェルナンダ・モンテネグロ〔セントラル・ステーション〕

製作:ルーシー・バラット 原作:フェルナンド・ガベイラ著「O que é isso, companheiro?」音楽:ステュワート・コーブランド 挿入曲「イバネマの娘」「朝日のある家」ほか  
'97年アカデミー賞外国語映画部門ノミネート 配給:シネカノン

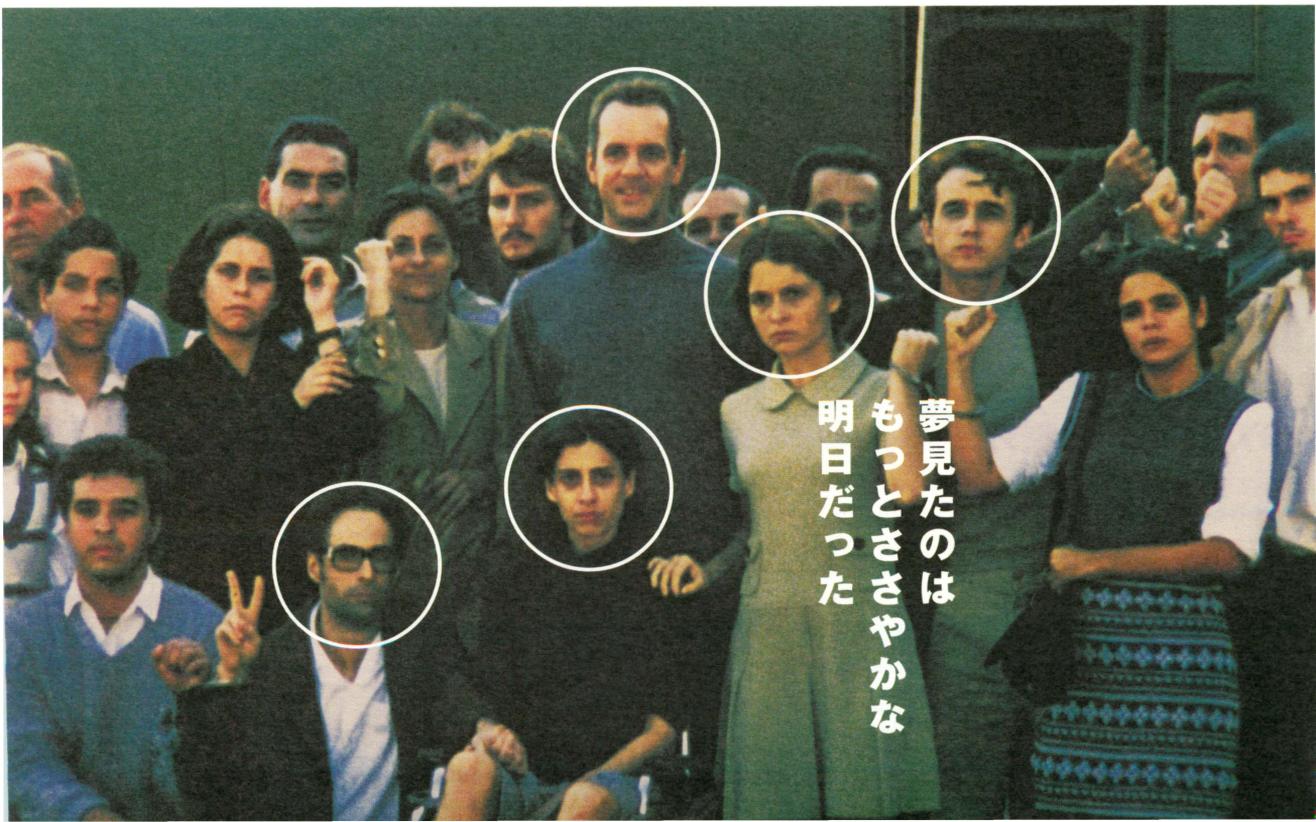
A film by Bruno Barreto <FOURDAYS IN SEPTEMBER> starring ALAN ARKIN, PEDRO CARDOSO, FERNANDA TORRES with FERNANDA MONTENEGRO

Produced by LUCY BARRETO Based on the book "O que é isso, companheiro?" by FERNANDO GABEIRA Music: STEWART COPELAND

©1997Produções Cinematográficas LC Barreto Ltda.

OLYMPIA

C&N



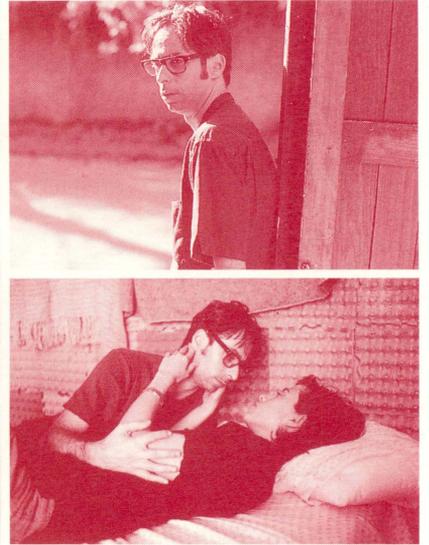
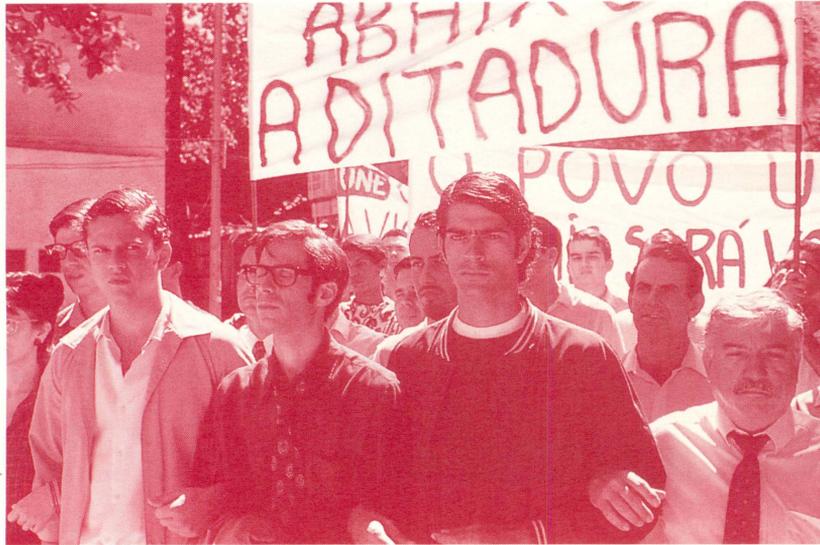
夢見たのは  
もっとささやかな  
明日だった

なんてエモーショナル! ブルーノの最高傑作だ!—スティーブン・スピルバーグ……[ブラジル・ヴェジャ誌]

バレットは、歴史の一コマに潜んでいた人間ドラマを深く、鋭く描いた。……[ワシントン・タイムズ誌]

「クアトロ・ディアス」の根底に流れるエロシチズムに胸を打たれる。  
強烈なラストは必見だ。……[シカゴトリビューン誌]

この「四日間(クアトロ・ディアス)」は見る者全員に忘れられない四日間になる!!……[サン誌]



クアトロ・ディアス

## 1969年9月4日、リオデジャネイロ。アメリカ大使誘拐。事件発生からの四日間、ブラジルは、そして世界は、夢見がちな青年によってざわめき始めた。

「クアトロ・ディアス」はブラジルで実際に起こった、学生グループによるアメリカ大使誘拐事件を映画化した。ブラジル映画界の重鎮ブルーノ・バレット監督の最新作。実際に事件に関与していたフェルナンド・ガベイラの自伝的小説「O que é isso, companheiro?」をベースにしている。アメリカ大使誘拐事件はその後、全世界で続発事件を引き起こすほどの影響をもたらした。この事件の首謀者は、フェルナンドという、ごく普通のイノセ

ントで理想に燃えた学生であった。彼は、世の注目を集めるために無謀な思いつきを実行に移してしまった。ブルーノ・バレット監督は歴史的な政治事件を題材にしなが、政治色に偏ることも、単に経過だけを追うこともしない、ひとつの理想に向かって揺れ動く人々の感情を、感傷に陥ることなく重厚に描いていく。囚える側と囚われる側の心の葛藤を、見事に息詰まる人間ドラマに仕立て上げ、見る者の魂を揺さぶる。

## 事件の当事者による実話、ブラジルでベストセラーになった自伝の映画化

作家フェルナンド・ガベイラのベストセラーの映画化は、プロデューサーのルーシー&ルイス・カルロス・バレットの長年の夢だった。エグゼクティヴ・プロデューサーのルイス・カルロス・バレットは、出版される前に原稿の一部を読み、これがベストセラーになると同時に映画化の権利を取得した。当時、本作が政治的でかつ、事件が起きてから時間が経ってなかったため、企画が本格的に動きだすまでに12年もの歳月を要してしまった。しかし、その熟成期間にこの拉致・監禁事件に関わったすべてのブラジル人にインタビューを行い、米国側の見解を映画に盛り込む為に渡米、ロサンゼルス大学及びワシントンの国会図書館でリサーチをした。さらにチャールズ・エルブリック大

使の实娘に会い、その対話は、大使の心理を理解するための要となった。「苛酷な状況下にある両側(ケリラ側と人質にとられた側)の人間の感情の動きの探求というのが始めからのねらいだったのです。」と、プロデューサーのルーシーは語っている。製作補にアメリカ/コロンビアピクチャーズとソニー・コーポレーションを迎え、450万ドルをかけて製作された。ポストプロダクションには細心の注意が払われ、編集・ミキシングの両方がロスで行われた。そして、アメリカ公開時にはミラマックスが150万ドルをかけて大々的にキャンペーンを行った。これはブラジル映画始めて以来のことである。

## 97年アカデミー賞外国語映画賞ノミネート/96年ヴェネチア国際映画祭正式出品作品

76年「未亡人ドナ・フロールの理想的再婚生活」で1200万人という未だに破られることのない国内最高動員記録を持っているブラジル映画界の重鎮、ブルーノ・バレット監督がメガフォンを握り、アメリカ大使エルブリックにアラン・アーキン(68年「愛すれど心さびしく」でアカデミー主演男優賞ノミネート)、他に86年の「死ぬまで愛して」でカンヌ国際映画祭で主演女優賞を受賞したフェルナン

ダ・トレス、「セントラル・ステーション」で数々の賞に輝くフェルナンダ・モンテ・ネグロほか豪華キャスト迎え、撮影は「私が愛したグリーンゴ」のフェリックス・モンティ、音楽は「ウォール街」、「リフ・ラフ」のステュアート・コーブランド、挿入曲は「イバナマの娘」「朝日のある家」など様々なブラジリアン・ミュージックがムードを盛りあげている。

熱狂と虚脱。喧噪と不安。錯綜したあの時代感情が今くっきり浮かびあがる…… **船戸与一** 作家

6/5[土]より衝撃のロードショー!!

特別鑑賞券1400円 当日一般・学生1700円/シニア1000円  
当劇場窓口、および都内各プレイガイド、チケットぴあ、チケット・セゾンにて絶賛発売中

**BOX** 東中野

12:00 2:15 4:30 6:45 入替制

BOX ホレボシ坐  
栗中野 ビル地下

山手線  
●三軒茶屋  
●JR東中野駅

Tel.03-5389-6780